【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成16年12月9日(2004.12.9)

【公開番号】特開2000-67626(P2000-67626A)
【公開日】平成12年3月3日(2000.3.3)
【出願番号】特願平10-232621
【国際特許分類第７版】
　Ｆ２１Ｖ　8/00
　Ｇ０９Ｆ　9/00
【ＦＩ】
　Ｆ２１Ｖ　8/00　６０１Ｅ
　Ｇ０９Ｆ　9/00　３３６Ｅ

【手続補正書】
【提出日】平成15年12月24日(2003.12.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
２つの板状導光体の光入射端面の双方に隣接して該光入射端面に沿って延在するように線状光源が配置されており、前記２つの導光体は前記線状光源からそれぞれ光入射端面を経て入射する光を同一の側の光出射面から出射させる光出射機構を有しており、前記２つの導光体及び前記線状光源に隣接して前記光出射面の側に該光出射面からの出射光の進行方向を変化させる光進行方向転換素子が配置されていることを特徴とする面光源装置。
【請求項２】
複数の板状導光体と複数の線状光源とが、隣接する導光体の光入射端面の双方に隣接して該光入射端面に沿って延在するように線状光源を介在させて、交互に配列されており、前記隣接する導光体は前記線状光源からそれぞれ光入射端面を経て入射する光を同一の側の光出射面から出射させる光出射機構を有しており、前記導光体及び前記線状光源に隣接して前記光出射面の側に該光出射面からの出射光の進行方向を変化させる光進行方向転換素子が配置されていることを特徴とする面光源装置。
【請求項３】
前記隣接する導光体間の距離Ｄと、前記光進行方向変換素子と前記導光体の光出射面との間の距離Ｔと、前記導光体の光出射面から出射する光の出射光分布の最大ピーク光度出射光が前記導光体の光出射面の法線に対してなす角度θとが、次の式（１）の関係を満足することを特徴とする、請求項１または２に記載の面光源装置。
【数１】

$$D/(4\tan\theta) \leqq T \leqq D/\tan\theta \qquad (1)$$

【請求項４】
前記線状光源と前記光進行方向転換素子との間には光制御部材が配置されていることを特徴とする、請求項１～３のいずれかに記載の面光源装置。
【請求項５】
請求項１～４のいずれかに記載の面光源装置と、前記光進行方向転換素子に隣接して配置された画像担持体とを含んでなることを特徴とする画像表示装置。